

# ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所  
士別市東3条北7丁目  
Tel0165-22-3100  
fax0165-23-4356

# 検証！「支庁制度改革」

## ふるさと 郷土に傷み押しつけ、振興局制度スタート！



### 地域からの反対

なぜ、振興局となる地域から強硬な反対の意見が出

### 看板の掛け替え

「なぐんも、変わった事はない。変わったのは、看板だけさ。」これは、今年4月に支庁制度が変わったことに関し、道職員から聞いた言葉です。また、今回の改革では、振興局となる地域から強硬な反対運動が起こり、それを振り切る形で支庁制度がスタートしました。

### 「北口雄幸道議と語る 青空の集い」のご案内

とき：7月31日(土)15時～  
ところ：中央公園(士別市東2-5)  
会費：2,000円(小雨決行)  
主催：北口雄幸士別市後援会  
青空でジンギスカンを囲みながら、北口道議と語り合いませんか？サフォークの丸焼きや抽選など、盛りだくさん！

小雨は決行します。中止の場合は、当日の17時まで限り会場にて肉と交換できます。

【会券のお求め先】

北口事務所(東3条北7丁目)

電話 0165-22-3100

FAX 0165-23-4356

されたのか考えてみると、

まず、当初は、百年続いた支庁制度ですが、交通機関が発達し、生活経済圏域が拡大したことから、それに合わせた改革が必要とのことでスタートしたはずでしたが、いつしか、行政改革にすり替わったことから、地域の反対も強くなったと思われます。その結果、当

初6圏域での改革の予定が、いつしか総合振興局は9つに増え、6つの生活経済圏域との整合性が取れなくなっ

たことです。

何より、高橋知事自身が、支庁制度改革の決意を強くしながら、結局嫌なことは部下に押しつけ、それぞれの地域の声を真摯に聞かなかつたことが、問題をよりこじらせたと感じています。

### 強硬採決と改正

一昨年の6月、地域の反対を押し切り「総合振興局設置条例」は、私たちの意見や地域の反対を押し切り、自民党・公明党の賛成多数で採決されました。しかし、町村会などが依然として反対の姿勢を貫き、この条例は一度も施行されることなく、「北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条

例」に改正されました。

### 理念なき改革

改革には理念が必要です。なぜ、改革をしなければならぬのか。改革をするこにより、どこがどのように変わっていくのかを、住民に丁寧に説明しなければなりません。

### 行革だけが先行

しかし、本来の「支庁制度改革」は、「分権対応」「広域政策」「行政改革」の3つの理念からスタートしました。しかし、結局「行政改革」ばかりが全面に押し出され、改革の意義が薄れたことが地域の反発を招いたのです。

この4月から、新たな振興局がスタートしました。今後、今回の改革によるエネルギー(財源)などの検証も必要と考えています。また、本道の改革の成果が出るまで、私たちとして検証を続けていかなければならないと感じています。

# 第二回定例道議会報告(6月8日~6月25日)

平成22年第2回定例道議会は、6月8日から25日までの18日間の日程で開会されました。

高橋知事は、わが会派の代  
表格質問が行われた14日か  
ら17日まで、体調不良を理  
由にして本会議を欠席。こ  
の間の本会議での答弁は、  
3人の副知事が代行しまし  
た。このため、会派代表格  
質問では、知事の政治姿勢  
に関わる質問の一部を見送  
るなどの混乱が生まれました。  
また、宮崎県で大流行し  
ている口蹄疫対策経費とし

て3億5千万円、単独投資  
事業費として32億2千万円、  
ソフトウェアライセンス取

## 北口道議、予算特別委員会

### エゾシカ対策で一斉駆除など提言

予算特別委員会第1分科  
会に所属した北口道議は、  
環境生活部での審議におい  
て、道内で40億円を超える  
農業被害が報告されている  
「エゾシカ対策」について  
道の考えを質しました。  
質疑では、エゾシカ保護  
管理検討会について、

得費として1億6千万円の  
補正予算を可決。今年の予  
算総額は、一般会計2兆8  
千218億円、特別会計6千585  
億円、合計3兆4千803億円  
となりました。

市町村による鳥獣被害防  
止計画の策定状況について  
全道エゾシカ対策協議会  
(通称：エゾシカ包囲網会  
議)について、狩猟者の  
確保策について、エゾシ  
カを増やさない対策につい  
て、一斉駆除とその支援  
について、今後のエゾシ  
カ対策について、などを質  
疑しました。

### 新たな効率的捕獲へ

道からの答弁では、一斉  
駆除に対する道の役割では、  
「各振興局が中心となり、  
市町村や猟友会、森林管理  
者などと調整を図りながら、  
自衛隊の支援もいただき、  
地域の実態に適した効率的

な捕獲の枠組みづくりには積  
極的に取り組む」との認識  
が示され、一斉駆除に向け  
た動きが始まりました。

### 特定課題枠の活用へ

また、先の一般質問の答  
弁では、エゾシカ対策への  
財支援について、「地域づく  
り総合交付金の『特定課題  
対策事業』枠の活用も視野  
に、全道的な観点から緊急  
対策の実施について検討す  
る」と、財政支援について  
も踏み込んだ答弁がなされ  
ました。

### 上川対策連絡協発足

道としては、各地域での  
エゾシカ対策をより具体的  
に展開するため、「上川エゾ  
シカ対策連絡協議会」を7  
月1日発足しました。

上川連絡協は、市町村や国  
の機関、猟友会、旭山動物  
園、交通機関、警察、大学  
演習林機関などで構成。今  
後の被害防止に向けた情報  
や意見交換を確認しました。  
また、昨年度の管内の農林

業被害が前年度比13%増の  
約6億1700万円となり、  
初めて6億円を突破したこ  
とも報告されました。

### 採択された決議・意見書

地方財政の充実・強化を求  
める意見書 B型肝炎問題の  
早期全面解決を求める意見書  
外国資本等による土地売買  
等に関する法整備を求める意  
見書 一般国道の維持管理の  
充実を求める意見書 精神障  
がい者に公共交通機関の運賃  
割引制度適用を求める意見書  
重症心身障がい児(者)へ  
の支援に関する意見書 口蹄  
疫など家畜の感染症に対する  
備えを万全にするよう求める  
意見書 森林・林業政策の早  
急かつ確実な推進に関する意  
見書 道路の整備に関する意  
見書 義務教育の機会均等の  
確保と教育予算の確保・拡充  
を求める意見書 小林千代美  
衆議院議員の議員辞職を求め  
る決議 荒井聰衆議院議員の  
事務所経費疑惑に関する真相  
解明と説明責任を果たすよう  
求める決議  
印は、自民党派から提出  
され、民主党派としては、そ  
の内容や手続きが妥当性を  
欠き、党利党略を地方議会に  
持ち込むものとして反対し  
ましたが、可決されました。



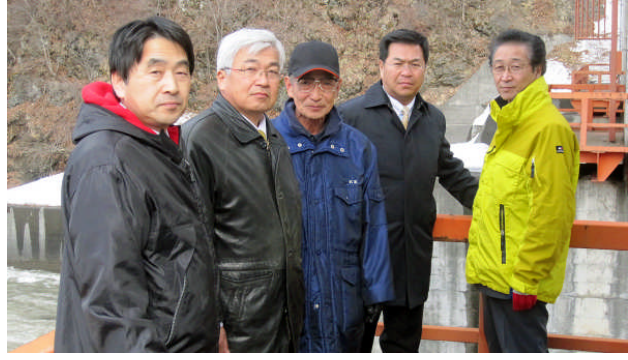
予算特別委員会でエゾシカ対策を質疑する北口道議(6月22日)



写真で振り返る北口道議の活動記録(4月～6月)



幌延深地層研究センターを現地調査(4/21)



山部土地改良施設を現地調査(4/11)



羊と雲の丘での牧柵修復作業(4/25)



士別市職員OB会定期総会で記念撮影(4/23)



下川町での道政報告会(5/6)



道議会総合政策委員会で幌加内町を視察(4/27)



山開き登山会で天塩岳山頂にて(6/6)



サハリンを訪問、イワノフ副知事と懇談(5/19)



きたごりんファームでの田植え作業(5/28)



「牧野勇司さんと市民の集い」で締めのお酒(6/11)



# 北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kitaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋してご紹介します。(4月～6月分)

## 4月8日【要請行動】

今日は、牧野勇司土別市長とともに、北海道及び北海道開発局、上川総合振興局へご挨拶及び要請活動を行ってきた。今日は、新年度になり人事異動に伴うご挨拶と地域医療、基盤整備予算の確保などの課題について道庁の幹部職員や北海道開発局を訪れ、意見交換してきた。



牧野市長とともに北海道開発局に要請

## 4月16日【農対協総会】

今日は、土別市農業経営確立対策協議会(通称「土別市農対協、佐久間富雄会長)の第22回定期総会が開催され、私も参加しご挨拶の機会をいただいた(中略)



農対協総会でご挨拶させていただく

今日の定期総会には、各構成団体から80名ほど出席し

て開催され、冒頭、佐久間会長は「今年から米をモデルに戸別所得補償制度が導入され、来年からは畑作に移行する。全国一律の制度ではなく、実態に合った制度設計を求めて運動を進めていかなければならない」とご挨拶され、私からは「水田活用自給力向上対策事業や来年からの畑作戸別

所得補償制度の生産費調査についての考え方についてお話しし「農政議連の役員として、持続可能な農業政策が展開できるような頑張る」との決意をお話しさせていただいた。

## 5月30日【北海道植樹祭】

今日は、素晴らしいお天気に恵まれ、千8百名の皆さんが参加し、盛会のうちに「第61回北海道植樹祭in下川」が開催された(中略)



下川の小学生と記念植樹を行う

◆今回全道植樹祭が開催される下川町は、明治34年に開拓が始まり今年で110年の節目の年であり、町内の9割が森林に囲まれ、環境モデル都市の指定を受け、まさしく森林とともに発展し

た町である◆今日の植樹祭には、地元の小学生も参加し、私はそのお二人と一緒に植樹をさせていただいた。この子どもたちが成長し、そして次の世代の頃には、きつと立派な木に育ってくれるものと信じている。

## 6月12日【国鉄闘争団】



戦い抜いた北海道原告団と記念撮影

23年前、国鉄から解雇され、JR復帰を目指し闘い続けてきた原告団の春季合宿が行われ、私も参加してきた(中略) 昨年の政権交代、民主党・社民党・国民新党・公明党は政府に対し、和解案を提示、原告団もこれを了承した。しかし、闘いはこれからだ。雇用問題が残っているからだ。雇

用の希望者は322名で、うちJR復帰を求める方は183名。全員がどのように復帰するかが今後の争点となる。今回の闘いを単なる国鉄闘争団だけではなく、全ての労働者にかげられた攻撃と受け止め、最後まで闘っていかねばならない。それにしても、和解できたことは大きな前進であり、この間ご苦労いただいた皆さんに敬意を表したい。

## 【つづいて】

「遅い雪解けと冷夏」今年の長期予報である。この言葉を聞いたとき、また今年も農家の皆さんにとって、厳しい1年になるのかと心配したものである。それから2ヶ月。冷夏と予想された6月は、とりあえず暑い日が続き、雪解けの遅さを克服した感もある。北海道そして上川管内はなんとと言っても農業が基幹産業の地域だ。農業が元気になって地域も元気になる。まだまだ安心はできない。これからの日照時間と台風が心配だ。安心できる日は、もう少し先なのかもしれない。(ゆうこう)